

まえがき

激動する環境の変化に対して上手く適応できなければ、組織は生き残ることが出来ない。これは軍事組織についても当てはまる。緊縮経済の時代にあって、各国では軍の能力や組織のあり方について見直しが進められており、その方法論、つまり「防衛力の戦略的マネジメント」への関心が現在、高まりつつある。

不確実な将来の安全保障環境において、軍が多様な任務に応え得る能力を構築し、かつ、潜在的な脅威に対して優位性を保つには、リスクを適切に評価し、先んじて「軍事におけるイノベーション」を実現することが重要なポイントとなる。そのためには、限られた資源を成長が見込まれる分野に選択的かつ集中的に投資する、不足している機能を外部から調達する、あるいは、環境や競争条件の変化に素早く対応できるよう組織や能力を日々進化させる仕組みを設ける、といった工夫が求められる。このような施策を実現するための組織や制度のデザインについては、マネジメント研究の分野で豊富な研究の蓄積がある。「防衛力の戦略的マネジメント」の課題は、これらの知見を如何に軍事組織の運用や軍事戦略の策定プロセスに応用するのかにあるといえよう。

2012年、創設60周年を迎えた防衛研究所では、この節目となる年に「防衛力の戦略的マネジメント」を安全保障国際シンポジウムのテーマとして取り上げ、日、米、英、韓、豪、印及びスウェーデンから著名な研究者、安全保障専門家を招へいし、様々な視点から討議を行った。本報告書は、その際の検討を踏まえ、これからの防衛力のあり方について将来像を展望し、また、その中で各国が直面している課題について紹介する。様々な組織において戦略の策定に取り組む人々が本報告書を手に取り、ここで紹介される議論が「戦略的マネジメント」について考える手掛かりとなれば、幸いである。

防衛省 防衛研究所
理論研究部長
吉崎 知典